

西日本豪雨 死者50人



大雨による死者数 (5日以降)

徳島	1人
大分	1人
兵庫	1人
岡山	3人
広島	22人
山口	3人
愛媛	18人
福岡	1人

不明50人救出続く

各地で土砂崩れが多発
各地で土砂崩れが多発し、死者50人、不明50人が救出された。土砂崩れが原因で、各地で土砂崩れが多発し、死者50人、不明50人が救出された。土砂崩れが原因で、各地で土砂崩れが多発し、死者50人、不明50人が救出された。

土砂崩れ 各地で

西日本中心に七日、活断層を相前後し、土砂崩れが多発し、死者50人、不明50人が救出された。土砂崩れが原因で、各地で土砂崩れが多発し、死者50人、不明50人が救出された。

東京新聞

中日新聞東京本社

前出で「消えた大天才」
7:00

読者とともに
TEL 03-6910-2201
TOKYO Web

洗濯
110円

必ず期外休み
10ウルグアイ
11ブラジル

西日本豪雨災害の発生

7月6日から各地で大雨の特別警戒に入り、望まれたが、オウム真理教・麻原死刑囚ら7人の刑執行があつたため、多くの紙面がそのために割かれたのは、被災された方々には大変気の毒であつた。

豪雨死者103人



西日本豪雨による死者103人、不明50人が救出された。土砂崩れが原因で、各地で土砂崩れが多発し、死者103人、不明50人が救出された。

西日本豪雨による死者103人、不明50人が救出された。土砂崩れが原因で、各地で土砂崩れが多発し、死者103人、不明50人が救出された。



はじめに

東日本から西日本の広い範囲で大雨が降り、気象庁は6日、鳥取、岡山、広島、福岡、佐賀、長崎の6県に大雨の特別警報を出し、土砂災害の発生に最大級の警戒を呼び掛けた。6県で特別警報が同時に出るのは、2013年8月の運用開始以来最多。大雨による死者は5日以降で3人、心肺停止が1人、行方不明者情報は8人になった。

気象庁によると、南から暖かく湿った空気が流れ込み、前線の活動が活発化。大気の状態が非常に不安定になっている。8日にかけて広い範囲で大雨になり、特に7日にかけては雷を伴った1時間に80mmの猛烈な雨が降る地域もありそうだ。雨雲の動き次第では今後、近畿でも特別警報が出る可能性がある。

6日は各地で非常に激しい雨が降り、佐賀県嬉野市では1時間に84.5mm、長崎県佐世保市で73.5mm、北九州市小倉南区で64.0mmを記録。高知県馬路村は72時間雨量が1200mmを超えた。7日午後6時までの24時間予想雨量は多い所で、四国400mm、九州300mm、関東甲信、東海、近畿、中国200mm、北陸150mm、その後の24時間は四国100～200mm、北海道100～150mm、東北、関東甲信、北陸、東海、近畿、中国、九州50～100mm。特別警報が出た6県のほか京都府と大阪府、石川、福井、長野、岐阜、滋賀、兵庫、奈良、山口、徳島、香川、愛媛、高知、熊本、大分の各県に土砂災害警戒情報が出た。〔7月7日付け東京新聞より〕

このようにして西日本豪雨災害は日増しに災害の度を加え、現在も進行中である。当面はTV報道と新聞報道、それにネット情報を頼りに、岡山県倉敷市真備町と広島県安芸郡府中町の特異とも云える豪雨災害に注目してみたい。

倉敷市洪水・土砂災害 ハザードマップ (2017年作成) 真備・船穂地区の一部



図中で想定しているのは、小田川が100年に1回程度の確率の降雨(2日間で225mmの降雨)で堤防決壊、なおかつ、高梁川が150年に1回程度の降雨(2日間で248mmの降雨)で堤防決壊した場合の結果を重ね合わせた「浸水区域・深さ」。紫色の区域は「2階の軒下以上が浸水する程度、5.0m以上の浸水」を表わしている。

新聞報道で明らかになった真備町



東京新聞7月9日夕刊から判明した真備町の堤防決壊現場と被災区域



朝日新聞(7月10日)が伝えたハザードマップと今回の浸水域の類似性

下の写真は倉敷市真備町であることは確かだが、真備町の何処か、建物群は平屋か二階建てか、新聞紙面からは皆目わからなかった。



B地点からの
ストリートビュー



A地点からの
ストリートビュー



小田川の堤防決壊箇所に近い真備町箭田地区では、二階建家屋の二階軒先近くまで浸水していた！

グーグルマップで見た堤防決壊箇所と真備町箭田地区の位置関係

